

「登竜門と鯉のぼり」

校長 村上俊二

「卯の花の におう垣根に」

ホトトギス 早も来鳴きて

忍び音もらす 夏は来ぬ」

校庭の前の八尾城の緑がとても色濃くなって来ました。緑の山から、夏を告げるホトトギスの声が聞こえてきます。

代掻きの終わった田には、緑の早苗が風にそよぎ、鯉のぼりが空を泳ぎます。

端午の節句に鯉のぼりを立てるのは、我が家に男子が生まれましたというお披露目であり、我が子を成功に導いてくれる神様を天からまねくための目印ともいわれます。そのいわれは、中国の黄河上流の竜門という激流が連なる滝にあります。滝を見事に登り切った鯉に靈力が宿って竜に変身し、天に昇っていったという伝説にもとづきます。これを登竜門・鯉の滝登りといい、人生で難関にぶち当たったとき、鯉のように突破して、成功への道を歩んでほしいという願いがこめられているのです。

神石小学校では、間もなく運動会をおこなえます。子どもたちの、心を一つにして諦めず、何度もチャレンジする姿をこぼしたく思います。多くの皆様のおいでをお待ちしております。